

# 校長室だより

令和8年1月23日(金)  
第38号  
十日町市立中条中学校校長室

数年前にも校長室だよりで「ロバを売りに行く親子の話」というイソップ童話を紹介しました。道徳の教材にも使われています。この話を元に他との関わりについて考えてみませんか。

## ロバを売りに行く親子という童話

むかしむかしあるところに、農場を経営している親子がいました。ですが、農場の資金繰りは順調とは言えませんでした。そこで、父は一頭のロバを売ることに決めました。

二人でロバを引いて市場へ向かって歩きだしました。その光景を見ていた人にこう言われました。「せっかくロバを連れているのに、乗りもせずに歩いているなんてもったいないわねえ。」二人は、それはそうだと思い、父親がロバに乗ることにしました。そしてまた、その光景を見た別の人がこう言いました。「自分だけ楽をして子供を歩かせるとは、なんて親なのかしら。」二人は、それはそうだと思い、今度は息子がロバに乗ることにしました。そしてまたまた、その光景を見た別の人がこう言いました。「元気な若者が楽をして親を歩かせるなんて、これだから最近の若い者は！一緒にロバに乗ればいいだろう。」二人は、それはそうだと思い、今度は二人でロバに乗ることにしました。そしてまたまた、その光景を見た別の人がこう言いました。「二人も乗るなんて、重くてロバがかわいそうだわ…もっと楽にしてあげたらどうかしら…？」それもそうだと思い、親子はこうすれば、ロバは楽になるだろう!と、ロバを抱きかかえることにしたのです。しかし、窮屈な姿勢を嫌がったロバが暴れだしました。不運にもそこは橋の上でした。暴れたロバは、川に落ちて流されて死んでしまったのでした…。



この親子は人の意見に流され続けた結果、とうとう大事なロバを失ってしまうことになったのです。さて、この親子はどうすれば良かったと思いますか。この話で、考えるべきところはたくさんあると思います。私たちは人の意見に流されてしまうことがよくあります。この親子は自分の軸が無く、自分の主張にも自信がなく、人の意見に流されやすい性質でした。

人から言われたとおりにした結果が失敗しても、それを人のせいにすることはできません。言われたとおりにすることを決めたのは自分だからです。

この性格の裏側には「人の意見に従うと楽」という本音が見え隠れしていると言う学者もいます。なぜなら、これには科学的根拠があって、私たち人間は1日に約9,000回の決断をしていると言われていています。朝ごはんを何を食べるか、学校に何時に行くか、帰宅してから何をするか、何をかうか等々。些細なこと・重大なことを問わず、人によって1日に約9,000回の決断をしていると言われていています。

そして今回の場合、「人の意見に従うこと」で意思決定の回数を減らして脳をセーブしているとも言えます。しかし、日頃から考えることに対しズホラにならずに「この人はこう言っているが、自分はこの意見を取り入れるべきか?」と自問自答することが大切だと感じます。

考え方は人それぞれです。それなら自分がやろうと思ったとおりに行動した方が、自分で納得できるのではないのでしょうか。人から「こうした方がよい」と言われたとき、本当にそれで



いいのかを自分で考え、違うと思えば断る勇気も必要です。

ロバ売りの親子はいろいろな人に声をかけられて、もしかしたら自分たちがしていることがこれでいいのかと不安に思ったのかもしれませんが。もし、周りの人からの親子への声かけが違っていたらどうだったでしょう。たとえば、父親がロバに乗り子どもが歩いているのを見た人が、「親をロバに乗せて子どもが歩くなんて、親孝行の息子さんですね。」とか「息子さんは元気で体力がありますね。」などと言ったとしたら、親子の気持ちは明るくなり、ロバを失うこともなかったかもしれません。自分の考え方も人の考え方も大事にできるようになりたいものです。



校長室だより 35号で紹介した「アドラー心理学」では、このような他とのかかわりについてどう説明されているかを検索してみました。

### 1、他者の期待に振り回されない（課題の分離）

アドラーは「課題の分離」を強調しています。他人の評価や期待は「他人の課題」であり、自分がやっていることと切り離すことです。他の評価を聞いて考えたり、参考にしたりすることは大切ですが、全てを受け入れると失敗します。

教訓：「自分の課題に集中し、他人の課題に介入しない」

### 2、承認欲求からの自由

アドラーは「他者からの承認を求めない」ことを提唱しています。親子は「周りに良く思われたい」という承認欲求に支配され、結果的に失敗につながりました。

教訓：「人にどう思われるかより、自分がどうありたいかを大切に」

### 3、自分の選択に責任を持つ

アドラー心理学では「選択の責任」を強調しています。親子は自分の判断を放棄し、他人の意見に依存したため、結果に責任を持てなくなりました。

教訓：「自分で決めることが、責任と自由を生む」

### 4、勇気づけ（自分を信じる勇気）

アドラーは「勇気づけ」を重視します。他人の意見に流されず、自分の考えを貫くには勇気が必要です。

教訓：「自分の考えを信じる勇気を持つ」

まとめると、

#### 1、「全員に好かれる」のは不可能

周りの意見を全部聞こうとすると、結局なにもできなくなることがあります。SNSや友達関係の中でも、誰かがいいと言えば、誰かは反対したりします。

#### 2、「自分たちの基準」を持つことが大切

アドバイスは大事だけれど、最終的にどうするかを決めるのは自分です。他人の声に振り回されすぎると、本来の目的を見失ってしまいます。ロバの親子が失敗したのは「人の言うことを全部聞こうとした」からです。



生徒も含め、私たちみんな、周りの意見に迷うことはよくあると思います。でも、最後は「自分はしたいか」を忘れないことです。参考にすべき意見は取り入れつつ、最後は自分の頭で考えて決める。それが、ロバの親子の話から学べる大切な力です。